

授業科目名	在宅療養看護学臨地実習	担当教員	平山香代子
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：臨地実習 45時間

**【授業概要】**

健康問題のために在宅療養が必要な対象者を包括的にアセスメントし、家族介護者の生活と心情・思いを理解するとともに、看護の役割を探求する能力を修得する。

**【授業目的・目標】**

1. 訪問看護利用の在宅療養者を包括的にアセスメントする。
2. 在宅療養者と家族介護者の日々の生活状況と心情・思いなどを傾聴する。
3. 在宅療養者と家族への支援における看護の役割を理解する。
4. 在宅療養者と家族を支援する看護に求められる課題を見出せる。

**【履修条件】**

「在宅療養看護学」を履修していること

**【授業計画】**

- 実習1日目 訪問看護ステーションでの情報収集  
 実習2日～4日目 同行訪問—受け持ち療養者への包括的アセスメントとインタビューの実施—  
 実習5日目 カンファレンス&学習のまとめ

**【教科書】**

指定なし

**【参考書】**

1. 正野逸子・本田彰子編著（2014）関連図で理解する在宅看護過程, メヂカルフレンド社.

**【評価方法・評価基準】**

実習目標への到達度による評価（70%）、課題レポート（20%）、実習・カンファレンス貢献度（10%）

**【講義のために必要な事前・事後学習】**

- 事前学習：在宅療養看護学での学びを振り返り、対象のアセスメントに必要な情報を整理する  
 事後学習：学びを振り返る

**【教育目標（必須要素）との関連】**

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ．根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ．多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ．生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

**【試験や課題レポート等に関するフィードバック】**

実習期間中、インタビューや包括的アセスメントに関する相談時間を設ける

**【備考】**

4年次の在宅療養看護学で学ぶ「在宅看護過程」の特徴を押さえ、「包括的アセスメント」をイメージしておく。在宅療養看護学臨地実習で培った力は、4年次後期の地域看護学臨地実習と看護の統合と実践臨地実習で活かされる。